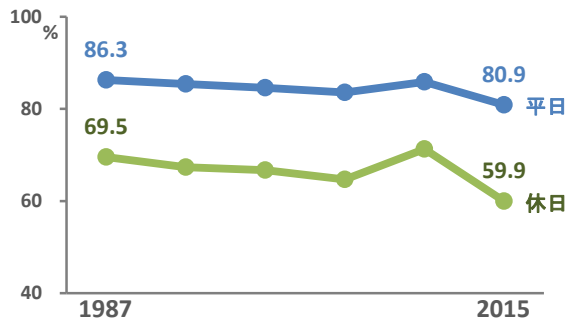


—全国都市交通特性調査結果より—

1 外出率

(一日一回は家から出かける人の割合)

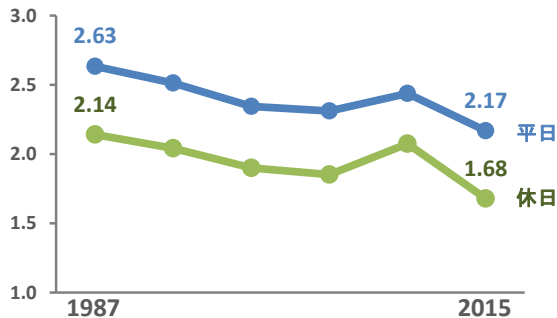
・外出した人は年々減少傾向



2 一日の移動回数

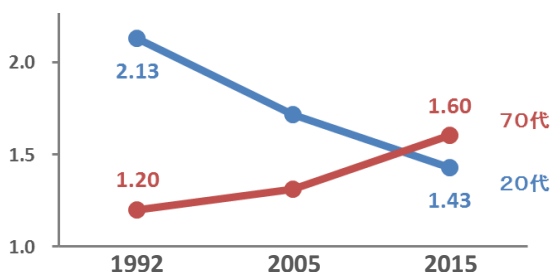
(一人が一日に移動する平均回数)

・移動回数は年々減少傾向



3 年代別の一日の移動回数 (休日)

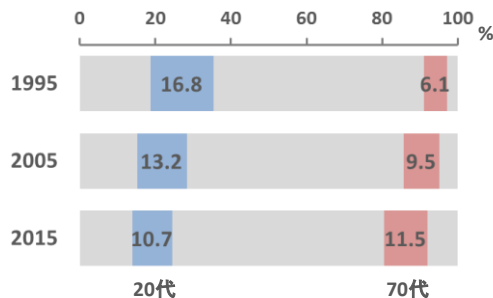
・若者の移動回数は減少傾向 (70代の移動回数を下回る)
 ・高齢者の移動回数は増加傾向 (1992年の20代ほどは移動しない)



<参考：関連統計データ>
 ~ 国勢調査結果より ~

* 参考1：人口構成の変化

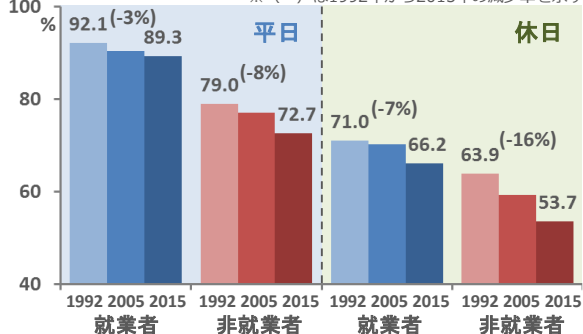
・高齢者が増加し、若者が減少



4 就業者と非就業者の外出率

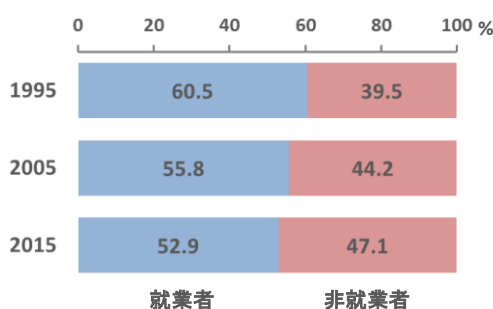
・非就業者の方が外出率が小さく、減少の割合も大きい

※ () は1992年から2015年の減少率を示す



* 参考2：就業者割合の変化

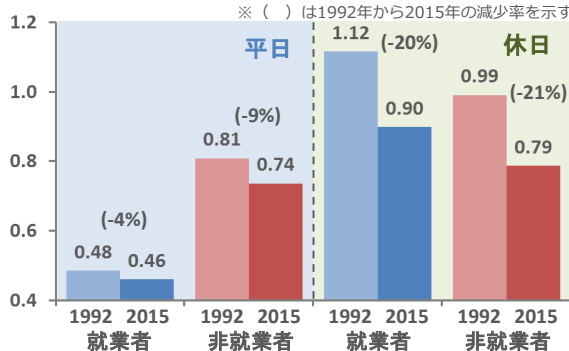
・非就業者の割合は増加傾向



5 私用目的の一日の移動回数

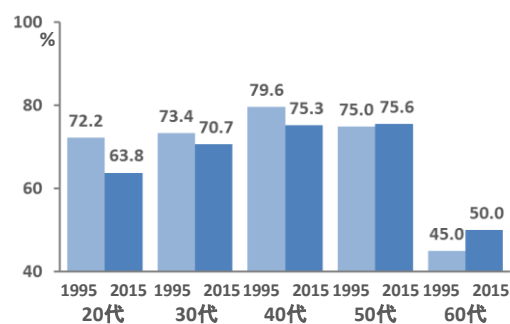
・特に、買い物、食事、娯楽といった私用目的の移動回数は就業者、非就業者問わず大きく減少

※ () は1992年から2015年の減少率を示す



* 参考3：年代別就業者割合

・若者の就業者割合は減少傾向



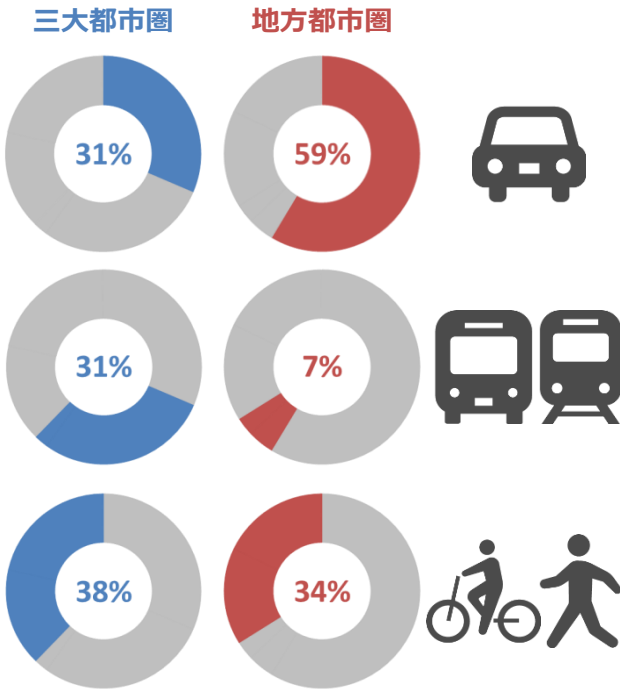
全国の都市における人の動きとその変化

—全国都市交通特性調査結果より—

6 移動するときに使う交通手段の割合

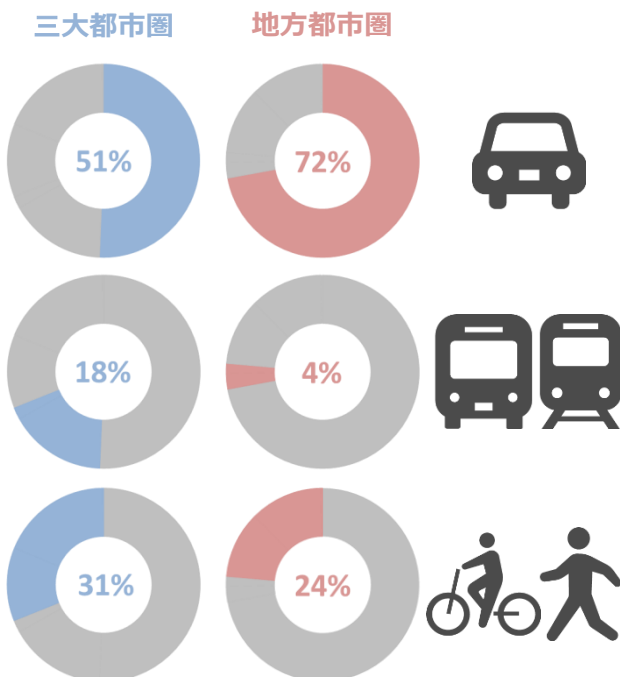
(平日)

- ・三大都市圏では公共交通の利用割合が高く、地方都市圏では自動車の割合が高い



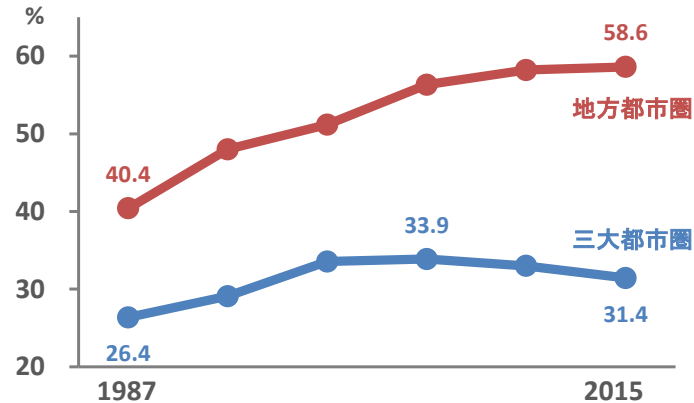
(休日)

- ・三大都市圏、地方都市圏とも自動車の利用割合が高い



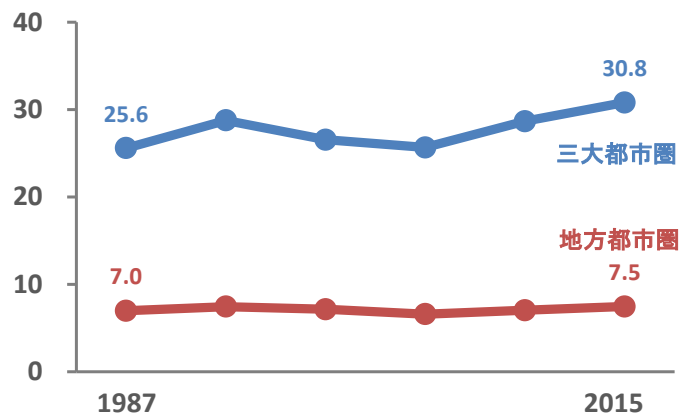
7 自動車利用率の変化 (平日)

- ・地方都市圏では自動車の利用率は増加
- ・三大都市圏では自動車の利用率は減少



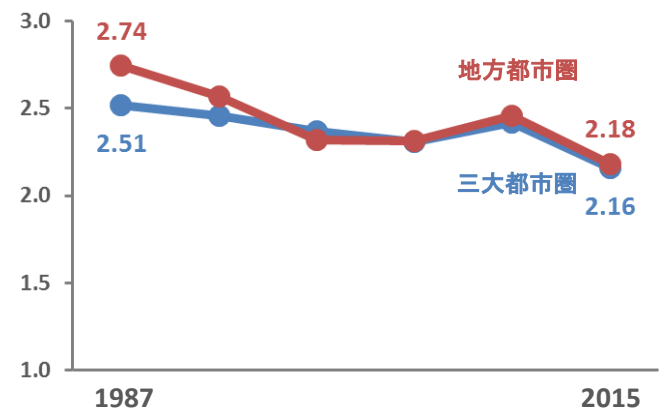
8 公共交通利用率の変化 (平日)

- ・三大都市圏では公共交通の利用率が増加
- ・地方都市圏では公共交通の利用率は横ばい



9 三大都市圏と地方都市圏の一日の移動回数 (平日)

- ・三大都市圏、地方都市圏とも移動回数は減少
- ・三大都市圏と地方都市圏の移動回数の差はほとんど無くなっている



別紙「全国の都市における人の動きとその変化」の解説

1. 外出率と移動回数について

図1は外出率を示している。平日で80.9%、休日で59.9%と過去最低の値を記録した。

図2は一日の移動回数を示している。平日で2.17回、休日で1.68回と過去最低の値を記録した。

2. 外出率や移動回数が減少している要因

①高齢者の増加と若者の外出減少

図3は年代別の一日の移動回数を示している。20代の移動回数は1.43回と減少しており、今回の調査結果では70代の移動回数1.60回を下回った。一方、70代の移動回数は増加しているものの、1992年の20代の移動回数(2.13回)ほどは多くない。

参考1の国勢調査結果によると、20代の人口構成割合は減少している一方、70代の人口構成割合は増加している。

このように、移動回数が減少している要因としては、移動回数の少ない高齢者の人口構成が増えたことや、かつては移動回数が多かった若者も移動回数が減少していることが考えられる。

②非就業者の増加

図4は就業者と非就業者の外出率を示している。非就業者の方が就業者よりも外出率は小さく、1992年と比べた減少割合も大きい。

図5のように買い物、食事、娯楽といった私用目的の一日の移動回数が大きく減少していることが分かる。

参考2の国勢調査結果によると、非就業者の割合は増加傾向にあり、2015年には47.1%となっている。参考3の国勢調査結果によると、年代別の就業者割合をみると、20代から40代で減少している一方、50代や60代は増加している。

このように、移動回数が減少している要因としては、外出が少なく、減少幅も大きい非就業者の割合が増加していることが考えられる。

3. 交通手段の利用について

図6は移動するときに使う交通手段の割合を示している。三大都市圏では、平日は公共交通と自動車の利用割合は同じ程度になっている一方、地方都市圏では、自動車の利用割合が6割近くを占めている。また、休日では、三大都市圏、地方都市圏ともに自動車の利用割合が大きい。

図7は自動車利用率の変化を示している。地方都市圏の自動車利用率は引き続き増加傾向である一方、三大都市圏の自動車利用率は2005年をピークに減少している。

図8は公共交通利用率の変化を示している。三大都市圏の公共交通利用率は増加傾向である一方、地方都市圏の公共交通利用率はほぼ横ばいである。

4. 三大都市圏と地方都市圏の移動回数について

図9は三大都市圏と地方都市圏の移動回数を示している。かつては三大都市圏より地方都市圏の方が移動回数は多かったが、差はほとんど無くなっている。